

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	公益社団法人 落語芸術協会
公演団体名	公益社団法人 落語芸術協会

内容
<p>本公演にてプロと共演するために 本公演では、落語家として、太鼓の叩き手として、高座に上がってもらいます。 事前に小噺（短い落語）担当と出囃子（太鼓）担当を各3名ずつ選出お願いします。 人数については相談に応じます。（6年生が4クラスあるので4組代表者を出したい等）</p> <p>●寄席についての解説 寄席の楽しみ方、落語の聞き方、寄席で鳴る太鼓にはどんな意味があるのかななどを、包括的に解説します。そういった下地があればこそ、本公演の演芸を深く理解し楽しめるものと考えています。初めて演芸に触れる子どもが多いかと思しますので、堅苦しくないよう楽しく進行いたします。</p> <p>●高座に上がってみる・太鼓を叩いてみるなどの体験 小噺（短い落語）と出囃子（太鼓）の体験については、代表の児童生徒を優先しますが、時間があれば、代表以外でやってみたい人も体験できるようにします。</p> <p>●落語一席（時間の余裕があった場合のみ） 初めて落語を聞く児童生徒にもわかりやすい短い落語を一席披露します。 ※上記ワークショップの様子をビデオで撮影してもらい、本公演まで代表児童生徒が復習できるような環境を整えていただけたらと思います。（各個人にコピーして渡す。いつでも見られるような場所を用意するなど） ※実施時間は90分程度（2時限）を予定。時間帯については可能な限り、各校の希望に合わせて調整いたします。</p>

タイムスケジュール（標準）
開始1時間前 学校到着、会場準備（高座設営）・打合せ ワークショップ 90分程度（2時限） ワークショップ終了後 会場撤収（50分程度）し退去

派遣者数
指導者3名（落語家2名+お囃子1名）、スタッフ1名 計4名

学校における事前指導
特になし

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書

制作団体名	公益社団法人 落語芸術協会
公演団体名	公益社団法人 落語芸術協会

演目
<ul style="list-style-type: none">●代表児童生徒<ul style="list-style-type: none">小噺（短い落語＝3～5分程度のもの） 3つ出囃子（太鼓）がクタイ・カドゥン・ショゲン などの3～5種のうちから選択●落語<ul style="list-style-type: none">「牛ほめ」「初天神」など。子供にも理解しやすい落語を実演※必ず上記演目が公演されるものではありません。●太神楽曲芸など落語以外の演芸<ul style="list-style-type: none">寄席の演出方法と同じく、落語以外の演芸を1本入れます。いずれも子供達の興味を強く引く演芸を設定します。

派遣者数
出演者： 5～6名（落語家3名、太神楽曲芸など落語以外の演芸1組、お囃子1名） スタッフ： 4～5名（舞台専門スタッフ3～4名、事務局1名） 合計： 9～11名（演芸が2人1組の場合があるため）

タイムスケジュール（標準）
09:00頃 舞台スタッフ到着、会場設営
11:00～11:30 出演者到着、その後、音響・舞台チェック・昼食・着替
12:30頃 代表児童生徒の着替え・リハール
13:30開演、15:10終演予定（その後、片付け・舞台撤収）
16:00頃 出演者退去予定
17:30前後 舞台スタッフ退去予定

実施校への協力依頼人員
代表児童生徒の着替え・リハールの際に、先生お一人で結構ですので、立会をお願いします。 公演前・休憩時・公演後の児童、生徒への案内や指示をお願いします。

演目解説

●「牛ほめ」のあらすじ

与太郎という名のちょっと調子っぱずれな子どもが父親に言われ、おじさんの新築の家を褒めに行く。おじさんの新築の家は贅を凝らした家で事前に家のほめ方を教えられた与太郎は、間違えながらもなんとか褒め続ける。おじさんに偉いねえと言われ調子に乗った与太郎は、庭にいる牛も褒めるが…。

※今は使わない言葉や難しい用語も出てくるが、子供達に分かるよう言い換えて柔軟に対応いたします。

●「初天神」のあらすじ

男が天満宮へ参拝に行こうと思いついたが、奥さんから子供も連れて行ってくれと頼まれて渋々連れて行くことに…。アレ買ってくれコレ買ってくれとねだらないと約束したのに、「いい子にしてたでしょ？」と言ってやっぱりねだってくる子供。そんな親子のやりとりに、現代の子供も思わず吹き出します。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

落語(小噺)、出囃子(太鼓)各3名、合計6名の代表は、開演の50分前に舞台袖に集合してもらい、和服に着替えリハーサルを行う。そのまま開演まで舞台袖で待機し、司会が代表児童生徒を一人ずつ紹介しますので、指示に従って、習得した落語や出囃子を発表する。余裕があれば、高座返しやめくりを返すなどの役割を担ってもらい、出演者の一員として共演する。

児童生徒とのふれあい

時間があれば、公演の終わりに児童生徒の感想を受けたり、質疑応答の時間を設けたり、落語や演芸をより理解してもらえるよう努める。代表児童生徒にはリハーサルから出演前の待機時間にも気を配り、高座を楽しんでもらえるようにする。